

「四季のまつり」写真コンテスト 入賞者決定!



大賞「華麗な舞」島元 慶子



金賞「名脇役に注ぐ」渡辺 雅代



銀賞「椿山太鼓」佐野 廣光

第二回仁淀川町「四季のまつり」写真コンテストの入賞者が決定しました。

コンテストは、町内で行われる伝統行事の魅力を感じさせる写真を募集したもので、県内外から百七十五点が寄せられ、この中から大賞など二十点が選ばれました。

入賞作品等の展示は四月十一日から三日間、中央公民館で行われ、七月八日から十三日までは高知市のNHKハートプラザギャラリーでも展示されます。

主な入賞者は次の方々です。

大賞「華麗な舞」島元 慶子（高知市）
 金賞「名脇役に注ぐ」渡辺 雅代（土佐市）
 銀賞「椿山太鼓」佐野 廣光（日高村）
 銅賞「おばちゃん明日が本番よ」中田 実（仁淀川町）
 特別賞「神の舞い」秀島 信恵（高知市）
 「奉納」富田 時則（四万十市）

今年も作品募集!

第3回「四季のまつり」写真コンテスト

テーマ 秋葉まつり、池川神楽、椿山太鼓踊り、名野川磐門神楽、都の太鼓踊り、安居神楽など、町内の伝統行事の活気あふれる姿や行事の魅力を感じさせるものであれば素材は自由です。

主催 仁淀川町教育委員会

入賞 大賞・金賞・銀賞・銅賞各1点ほか

締め切り日 平成21年3月17日（火）

入賞発表 平成21年3月下旬

作品送付先・問い合わせ

〒781-1801 仁淀川町森4231-1

仁淀教育事務所内

仁淀川町写真コンテスト係

☎0889・32・1041 FAX0889・32・2811

三月十六日、池川応援団による桜のテングス病除去作業が行われました。毎年恒例となっているこの作業はボランティアで行われており、今回は楮原地区で、参加者十七人が病気の枝を切るなどしました。

お昼には作業が終わり、その後は地区の方が用意した料理を食べながらの楽しい慰労会となりました。



高所作業車での作業

池川応援団が
テングス病除去

佐川高校ソフトボール部 全国大会で3位

第26回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会



喜びいっぱい佐川高校ソフトボール部

町から5選手が出場

三月二十一日から二十五日まで静岡県で行われた第二十六回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会に、佐川高校ソフトボール部十七人（うち仁淀川町から五人）が出場し、第

三位の好成績を収めました。

雄大な富士山を背に、初出場の佐川高校はベスト4に残ったものの、準決勝では優勝した大村工に敗れました。

しかし、最後まであきらめず、チーム一丸となって戦い抜いた選手の顔は、喜びと自信に満ちあふれていました。

選手たちは「ご支援、ご協力、また応援してくださった皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、今後ともさらに努力を重ね、全国制覇を目指して頑張りたい」と意気込んでいます。

試合結果は次の通りです。

一回戦	24-1	雄山（富山県）
二回戦	7-0	鳥取中央育英（鳥取県）
三回戦	8-0	大分東明（大分県）
準々決勝	7-5	箕島（和歌山県）
準決勝	0-5	大村工（長崎県）
準優勝		

教育研究所は3年目を迎えました

仁淀川町教育研究所は中央公民館2階にあり、今年で開所3年目を迎えました。日々の活動の主なものは、町内の学校が取り組んでいる研究のお手伝いですが、保育園も含め、さまざまな行事へも参加をさせていただきます。

またその他にも、地域教育推進協議会の開催や各小中学校の「開かれた学校づくりの会」への参加を通し、保護者や地域の皆さんの子どもたちへの思いを聞かせていただく機会を得られ、大変ありがたく思っています。

そこで今回からは、これまでの「地域教育便り」を「教育研究所便り」と変更し、お知らせする内容も研究所に関するものだけでなく「開かれた学校づくりの会」や、学校と地域が一緒になった活動を含めたものに広げ、各地区の様子を多くの方に知っていただけるよう、紹介していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。



長者地区に「ほめちゃってよ箱」

「褒めて子どもを育てよう」と、地域の方から子どもたちへのメッセージがこの箱に届けられます。

内容は「開かれた学校づくりの会」でも紹介されます。

四月一日から消防団幹部
(分団長以上) が次の通り
となりました。

消防団幹部名簿

役職	氏名
団長	藤原 芳男
副団長	西森 満生
	片岡 憲夫
	合田幸市郎
仁淀方面隊長	野々宮正輝
池川分団長	上尾勝日己
用居分団長	三浦 忠幸
狩山分団長	鈴木 昭雄
安居分団長	山中 政秋
寺村分団長	片岡 幸年
大崎分団長	岡林 信雄
名野川分団長	川村 勝宏
中津分団長	鎌倉 信昌
森分団長	片岡 龍也
川渡分団長	鎌倉 尚章
長者分団長	古味淳次郎
泉川分団長	西森 信彦
高瀬分団長	藤原 和徳
沢渡分団長	西森 正志
別枝分団長	西森 儀幸



藤原 芳男団長

新しく団長に就任された藤原芳男さんは、昭和三十一年に正ノ石分団に入団、平成六年からは同分団長、平成十一年からは吾川村消防団副団長、町村合併後も仁淀川町消防団の副団長として勤めてこられました。平成十年には消防庁長官表彰、永年勤続功労賞を受賞するなど多数の表彰を受けてられています。

藤原団長は「地域住民の皆様と生命と財産を守るために、頑張っています。三人の副団長と相談しながら、よりよい消防団活動をするためにいきます」と抱負を語っていました。

ともに考え、ともに活動を! —地域支援企画員—

地域の元気づくりや支え合いの取り組みを応援するため、県内では、現在六十人の地域支援企画員がそれぞれの地域で活動しています。

仁淀川町では、二人の職員が駐在し、町と連携しながら、地域に入って、住民の皆さまとともに考え、ともに活動することを基本に、地域の元気づくりにつながるよう、

- ① 住民の皆さまの主体的な活動に対するアドバイス
 - ② 先進的な事例の情報提供
 - ③ 人や行政とのパイプ役
- などの活動を行っています。

具体的には、地域の特産品づくり、施設活用、防災など、さまざまな活動があります。本年度は住民参加による産業振興計画づくりも始まります。

仁淀川町の地域活性化のために尽力したいと思えますので、どんな小さな事柄でも構いませんので、ぜひご相談ください。



青木 厚博

2年目になりました。
引き続き、地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。



西森 文明

4月1日付けの県職員人事異動で仁淀川町駐在に着任しました。
津野町出身39歳。趣味は、フライフィッシング(西洋毛鉤釣り)。よろしくお願いします。

問い合わせ

仁淀川町大崎二一四
仁淀川町基幹集落センター内
☎ 20・2072

教職員人事異動

4月1日付で、町立小・中学校と仁淀高校の教職員が下記のとおり異動しました。

転入・異動

新任校	職名	氏名	旧任校
大 崎 小	校長	有光 純一	岡豊小
	教諭	廣見 美佐	横内小
		山本 佳子	長者小
		高橋 満美	南小
名 野 川 小	校長	西村 敏雄	吉野小
	教諭	森 晴子	別府小
	講師	辻本 康平	野市小
池 川 小	教諭	横山 洋子	大崎小
		藤井 徹	越知面小
	講師	森 恵理佳	蓮池小
別 府 小	校長	園山眞知子	小川小
	教頭	下元 敏平	長沢小
	教諭	樋口 弘恵	吾桑小
		細木 聡子	長者小
		清水貴美子	名野川小
	講師	篠原隆一郎	伊野南小
長 者 小	校長	西森 栄一	大崎小
	教頭	山崎 美保	大野見小
	教諭	片岡 一朗	名野川小
		山本 敬之	三原小
		西森 由美	別府小
	講師	宮崎 愛弓	池川小
吾 川 中	校長	宮地 豊宏	吾北中
	教諭	鍋島 知人	旭中
	主幹	谷脇 実浦	仁淀中
	講師	井上 昌也	
		吉永 有希	
池 川 中	教諭	依光 良幸	春野中
		細木 伸代	高岡中
		市川 雅美	朝ヶ丘中
	養護教諭	藤田 綾穂	志和小
	事務	大田 智世	
仁 淀 中	校長	国貞 雅人	長者小
	教諭	森本 則子	池川中
	主任	坂東 俊彦	池川中
仁 淀 高	教諭	笹岡 和玄	高知西高
	養護教諭	後田 多栄	嶺北高
	主幹	園部 亜希	江の口養護学校

転出

旧任校	職名	氏名	新任校
大 崎 小	教諭	筒井 純代	越知小
池 川 小	教諭	竹崎真由美	仁淀川町教育研究所
		横川壽美子	横内小
長 者 小	教頭	和田 吉弘	能津小
	講師	武内 崇	朝倉第二小
吾 川 中	教諭	森 雅人	朝ヶ丘中
		谷本 吉弘	香長中
		保木 直美	日高中
	主任	中石 隆夫	伊野中
池 川 中	講師	増山 賢太	三原中
	教諭	鎌江 英子	伊野中
	講師	森光あゆみ	
仁 淀 中	教諭	佐々木万貴子	北陵中
		足達美栄子	高岡中
		野村 由美	西部中
仁 淀 高	教諭	坂本 靖	県立図書館
	養護教諭	中内しのぶ	春野高
	主査	池上 博子	高知南中
	講師	久保 絵理	須崎高

退職

名野川小：山本佐智子（校長）

別 府 小：岩原 秀実（教頭）

吾 川 中：林 和夫（校長）

池 川 中：杉野 雅彦（教頭）

県教育委員会生涯学習課へ出向

山中 照雄（教諭）

県立青少年センターへ出向

仁 淀 中：品原 信介（校長）





仁淀川を見下ろす眺めのよい集落

集落見聞録

(第27回)

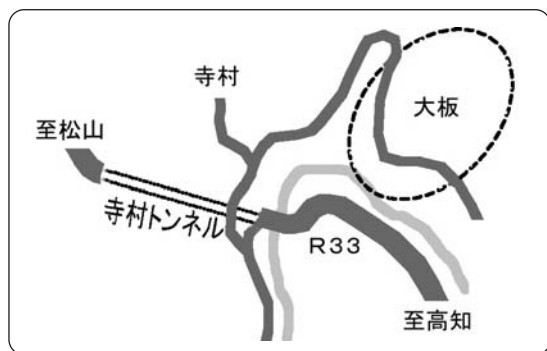
おお いた

大板

大板は役場本庁から車で約10分、仁淀川を見下ろす斜面にあり、3月末現在31世帯、73人の集落です。

大板という地名の語源については「遠い昔平安時代から残る地名語で、大は大きいという意味とともに美称の意味も含み、板はキダ（段＝切れ目）が変化したもので、刻まれたような地形、つまり段丘を呼んだものである。仁淀川と谷川の流れによって刻まれた大きな河岸段丘のある所という意味で地名となった」と吾川村史に書かれています。

南に面した集落内の畑では茶の栽培が盛んで、5軒ほどがおいしい茶づくりに励んでいます。



美しい茶畑の風景

茶畑と周りの山々が仁淀川の川面に映り、美しい風景を見せてくれます。

集落に詳しい岡林順一さんにお話を伺いました。

行事は…

昔は、虫送りや七夕、太鼓踊り、いろいろな神様のお祭りなど、毎月のように行事があったそうです。



「テレビのない時代に、みんなで集まってわいわいするのが楽しみでやりよったんじゃおね」と岡林さん。高齢化など時代の流れとともに行事も減ってきました。現在では、二月の御大師様、三月の金比羅様、七月と十一月の天満宮のお祭りが主な行事となっています。

主な産業は…

昭和三十年代後半までは、ほとんどの家が養蚕を行っており、畑では桑が栽培されていたそうです。

養蚕からお茶の栽培に変わった当初は「ベニホマレ」という紅茶の品種を栽培し、集落内には紅茶を製造する工場もありましたが売れ行きが悪いため、緑茶に切り替え現在に至っているとのこと。

集落について…

「高齢者は入院や施設へ入所するなど大板から出て行く。空き家が増えてきた。仕事がない関係で若い者がおつてくれんのが寂しい。『住めば都』と思って、ここでおる者は何とかやっていかんと」

集落の守り神・天満宮

